

第4学年3組 音楽科学習指導案

授業者 教諭 大塚 理央

- 1 題材名 「川の音楽」をつくろう
- 2 題材の目標 自分の思いや意図をもち、音楽の仕組みを生かした音楽づくりをする。
- 3 題材でひもとく音楽の要素や仕組み 【反復、変化、速度、強弱】

4 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、水戸市内を流れている那珂川が上流から河口に流れて行くまでの様子を、音楽で表す学習を進めていく。上流から河口までの様子の変化を、速度の変化や強弱の変化などの要素を盛り込みながら表すとともに、表現したい場面の様子を社会科や理科の学習で学んできたことを生かして具体的にイメージし、児童の発想を生かした音楽づくりをしていく。

(2) 児童の実態（男子14名 女子13名 計27名）

本学級の児童は「朝のリコーダー」で、児童の創作による4小節の曲を、初見で演奏することを毎朝行い、記譜や読譜に慣れ親しんできている。音楽の授業では、「音楽ポケット」を活用し、その楽曲に関する音楽の仕組みや要素について意識しながら楽曲を聴いたり演奏をしたりするようになってきている。

事前のアンケートでは、以下のような結果になった。（7月調査）

・どんなときに「曲の感じが変わったな」と思いますか。（自由記述）	
強弱が変わったとき 19人	速さが変わったとき 14人
リズムが変わったとき 10人	拍子が変わったとき 6人
演奏する楽器が変わったとき 5人	同じ旋律の繰り返しの途中で違う旋律が入ったとき4人
音の高さ（調）が変わったとき3人	演奏するパートが増えたり減ったりしたとき 3人

アンケートの結果より、児童は曲想の変化を様々な要素から捉えていることが分かる。これらを効果的に学習活動の中で生かすことができるようにしたい。

(3) 指導観

本題材では、児童がこれまでの学習で行ってきた、反復や変化による楽曲の面白さやよさを味わったり、「音楽ポケット」にある音楽の仕組みや要素を聴き取ったりしてきた活動の経験を生かしながら、音楽づくりに取り組ませたい。また、音楽づくりの手掛かりになる鑑賞曲を聴いたり、川の写真や映像を見ることで、表現する川全体の情景が想起できるような環境づくりをしていく。

最後には自分で音楽をつくったという成就感や達成感、音楽で自分の思いや場面の様子を表現する面白さや喜びを味わわせたい。また、3学期のミニコンサートへの出場をも視野に入れ、つくった音楽を聴いてもらうことの喜びも感じられるようにしていきたい。

5 教材について

- ・「オーラリー」 (ジョージ プールトン 作曲)

水の精をモチーフにしている「オーラリー」は、美しい旋律が魅力のリコーダー曲である。本題材では、音楽全体を流れるテーマとして扱いたい。

- ・「連作交響詩『我が祖国』から『モルダウ (ブルタバ)』」 (スメタナ 作曲)

この曲では、どのような水の流れや情景が表現されているのか場面ごとに感じ取り、自分たちの音楽づくりに生かせることがないか話し合う材料にしていきたい。

6 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱			
器楽			
創作	○	○	○
鑑賞		○	
評 題 価 材 規 の 準	どのような音楽をつくりたいのか想像を豊かに膨らませ、自分自身の音楽をつくり出そうとしている。	反復や変化などの音楽の仕組みを感じ取り、それらを生かした音楽づくりの仕方を工夫している。	音楽の仕組みを生かしたまとまりのある音楽づくりをしている。
具 学 体 習 の 活 評 動 価 に 規 お 準 け る	①「川の音楽」について自分の思いを広げ、音を音楽へ構成する活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②どのような音楽を構成していくのか全体の見通しをもって音楽づくりをしようとしている。	①音楽を聴くことを通して、リズムや強弱、速度などによる曲想の変化の面白さを感じ取っている。 ②様々なリズムや旋律の反復や変化を取り入れた表現の仕方を工夫している。 ③互いにつくった音楽を聴き合い、それぞれよさを感じ取って、自分の表現に生かそうとしている。	①リズムや旋律の反復や変化などの音楽の仕組みを生かして、表現している。

7 学習と評価の計画(6時間扱い)

次	ね ら い	主 な 学 習 活 動	具体的評価規準
第1次 (2)	○「川の音楽」について場面や情景の全体像を想起し、曲想の変化の面白さを感じ取る。	○「川の音楽」をつくることを知りどのような場面でどのような表現ができるかを話し合う。 「連作交響詩『我が祖国』より『モルダウ』」 ○曲想の変化の面白さを感じ取る。	アー① イー①

第2次 (2)	○表現したい場面や情景に合うように速度や強弱などを工夫して、グループで音楽づくりをする。	「オーラリー」 ○表現したい情景や場面に合うように、グループで表現の工夫について話し合ったり、試奏したりする。 ○つくりたい音楽全体の構造を考えて、表現の仕方を工夫する。	アー② イー②
第3次 (2) 本時は 第1時	○音楽の仕組みを生かして、音楽表現を楽しむ。	○グループごとにつくった音楽を聴き合って、よりよい音楽になるよう工夫をする。 ○各グループの演奏のよさを生かすことのできる演奏順序を考えて全体を構成し、「4年3組オリジナル組曲『那珂川』」を演奏する。	イー③ ウー①

8 本時の学習（第3次 第1時）

(1) 本時の学習について

これまでに学習した音楽の要素や仕組みを生かしてグループごとにつくった音楽を聴き合うことにより、よりよい音楽になるよう表現の仕方を工夫することの楽しさに気付かせたい。

(2) ねらい

つくった音楽をお互いに聴き合って、よりよい音楽になるよう表現の仕方を工夫する。

(3) 準備・資料

上流から河口までの絵譜、音楽ポケット、鍵盤楽器、打楽器、那珂川の資料

(4) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆学習活動における具体の評価規準）
1 「オーラリー」を演奏する。	○それぞれのグループの工夫点が他のグループの友達にもすぐに分かるように、場面や情景をどのように表現したか具体的に示した絵譜やメモを提示しておく。 ○場面や情景が、どのような仕組みで表現されていたか考えられるようにする。
2 本時のめあてを確かめる。 それぞれのグループのよいところをきき合って、もっとすてきな音楽にしよう。	
3 演奏の工夫について話し合う。 (1) それぞれのグループの演奏を聴き合い、工夫点について話し合う。	

(予想される表現の工夫)

場面	場面の様子	主に扱う音楽の仕組み	「オーラリー」の扱い
上流	・雨が降ってしずくになる ・小さな流れが集まり、流れる ・滝	・反復・問いと答え ・反復 ・変化	雨のしずくの音色が徐々に「オーラリー」の旋律に変わる。
中流	・清流で泳ぐ魚たち ・水辺で水遊びをする子どもたち	・反復 ・変化	清流の音に重ねる「オーラリー」の旋律。泳ぐ魚のイメージ。
中流 ～ 河口	・雷雨による増水 ・田畑を潤す ・大きな流れ ・海に流れ去る	・反復 ・反復・問いと答え ・変化 ・反復・変化	水量を増す、大海へ注ぐイメージをクレシェンド（旋律楽器を重ねていくなど）で表現する。
<p>(2) グループに分かれて試奏する。</p> <p>(3) グループごとに演奏し、成果を確かめる。</p>		<p>○他のグループの演奏を聴いて、自分たちの演奏に生かせることがないか考えさせるようにする。</p> <p>○仕組みや要素にかかわる言葉が出たときには随時「音楽ポケット」に整理していくようにする。</p> <p>◆互いにつくった音楽を聴き合い、それぞれのよさを感じ取って、自分の表現に生かそうとしている。(イー③：話し合いの様子の見取り、演奏の聴取)</p>	
<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 本時の活動を振り返る。</p> <p>(2) 次時の学習内容を確認する。 オリジナルの組曲を完成させることを確認する。</p>		<p>○表現の工夫をするときにも、「音楽ポケット」の仕組みや要素を使うと音楽で豊かに表現できることを確かめる。</p>	

9 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断する事例
<p>イー③</p> <p>互いにつくった音楽を聴き合い、それぞれのよさを感じ取って、自分の表現に生かそうとしている。</p>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの様子の見取り、演奏の聴取 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの音楽を聴いて、どのようなイメージや情景が表現されているか意識するよう助言する。 <p>【Aと判断する事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>表現のよさを音楽の仕組みや要素とかかわらせて捉えている。 <input type="checkbox"/>音楽全体の統一感や構成を意識した発言や発想をしている。